

### 1. 活動報告（事務局 記）

- 5月26日（土）周南市の福川子どもクラブの子ども探検隊がビオトープ探検で来訪されました。グループ対抗で、ビオトープの生き物（主に水棲動物）をいろいろと捕まえていました。参加者は、子37名とスタッフ15名で、ビオトープ側は管・原田マ・前田・原谷会員でした。
- 5月27日（日）ビオトープ全体と駐車場の草刈をしました。田植えの準備で、よけじの溝上げをして、田んぼの水張りをしました。参加者は9名でした。午後は、30日のボランティア活動のために、関根事務局長と原谷事務局で竹を切りました。
- 5月30日（水）中国電力(株)山口電力所の方々が里山ビオトープ二俣瀬整備作業に来られました。午前と午後の2班（各18名程度）がそばの竹林で整備作業を行われました。つくる会から、関根・原田マ・前田・管・原谷会員の5名が参加しました。川の対面の竹林は、見通しも良くなってきれいになりました。
- 6月 9日（土）16時～17時半 参加者5名 田植えの前準備としてJA山口宇部育苗センターより早苗を無償で受領運搬・及び新規格での尺紐の加工・祭壇づくり・周囲の追加草刈り等を実施した。臨時作業ではあるが稲作体験には欠かせない作業である。
- 6月10日（日）ビオトープのイベント、稲作体験「田植え」を行いました。最初に、挨拶や説明と豊作・安全祈願の神事を行い、田んぼに入って苗を植えてもらいました。どろんこに苦労しながら、順序良く植えていきました。田植えの後は、手足を洗って、膝癒しとして、おにぎりや豚汁を食べてもらいました。参加者は、親子自然観察隊（子7名、親8名）、二俣瀬子ども会（子23名、親19名）、二俣瀬小学校の校長・教頭、山大生2名、会員20名の81名でした。
- 6月16日（土）会員11名が参加し、田植え後の補植（田植え後に浮いた稲、および整列していない稲の修正）と湿地帯および止水池の除草を実施しました。作業開始前には中本会員より、親子自然観察隊の補助金申請に関する公開プレゼンテーション大会の説明がありました。
- 6月23日（土）会員11名が参加し、草刈り（観察路の法面および草原ゾーン）と止水池の除草（コウホネの除去）を実施しました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

### ◎来訪者

予定はありません。

### ◎行 事

—7月1日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）

—7月14日（土）維持活動（観察路・駐車場の草刈り）、稲作体験（親子自然観察隊）

—7月28日（土）維持活動（草刈り・清瀬峡整備）

## 3. 来訪者の声

今回はありません。

## 4. 会員の声 「側面からの支援」（原田満洲夫 記）

### ナツツバキ 咲て支援 ボランティア

止水池に蔓延る（はびこる）コウホネ草・スゲ草の間引き作業は沼地の中で厳しい作業となっている。しかし止水池傍のナツツバキ（沙羅の木）の白く艶のある花が、我々ボランティア活動の作業を見守ってくれる。この白い花が、つらい作業の苦労を忘れさせて心地よい支援をしてくれている。

## 5. 親子自然観察隊 「田植え」（管 哲郎 記）

台風5号の接近で雨が心配されましたが、雨の無い曇り空が続き、田植えには最高のお天気となりました。この時期の晴れ間は大変むし暑く、途中の休憩なしには子供たちにとってきつい作業になると思われましたが、予報は外れさわやかな気候の中、田植えを一気に済ませることができました。

観察隊の親子15名、ビオトープ会員20名のほか、二俣瀬子供会の親子と会長様、二俣瀬小学校の校長先生、山口大学より2名の学生さんの出席をいただき、今年もにぎやかに楽しく田植えを行うことができました。

新しく入会された新会員の中には田植えが初めてで、最初は田んぼに入るのを嫌がるお子さんもいらっしゃいましたが、引率されたご父兄と一緒に無事田植えを経験し、最後には立派にできるようになった隊員もいらっしゃいました。泥だらけになりましたが、いやだった田植えを経験し、やればできるということを経験されたと思われます。

関根事務局長のお話にもありましたが、“お米はこのようなして出来上がる“ということを学習していただき、それぞれの子供たちの心の中に植え付けられたらと思います。

現実には、お米作りは大変な作業が待っており、水の管理、雨対策、害虫対策、雑草対策、畦の補修作業などが毎日のように続きます。農家の人たちは毎日がコメ作りの仕事で休めません、私たちは田植えと稲刈りだけに来て、楽しめばよいのですが、地元の方々はそのようなわけにはゆかないのです。

このような現状は都市部にすむ私たちにはかかわってきませんが、お米作りの大変さを少しでも子供たちに理解していただく一助になれば、有意義な田植えであったと思われます。

今年も無事、田植えを済ませました、膝癒しの賄を行っていただいた会員の皆様方にもお礼を申し上げます、早朝よりご飯を炊き、おにぎりを作ってくれました。おかげで、おにぎりはとてもおいしかったです。子供たちの中には余分に食べた子もいらっしまったようですが、残らず完食でよかったです。

地元の方々も歳をとり、年々お米作りが大変になっています。お米作りがいつまで続くかわかりませんが、1年でも長く続くことを祈っているところです。



田植え前の神事



ビオトープの田植え風景

## 6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(30) ビロウドハマキ *Cerace xanthocosma* Diakonoff

鱗翅目 ハマキガ科

「ガ」とは思えないような体色をしており、最初に発見したときには何だかわかりませんでした。本州と九州に分布し、年2回、6月～10月にかけて現れます。食樹はモミジ、カシ、シイ、椿などでどこにでもいそうですがあまり見かけることはありません。大きさは16～26mmと変化があり昼間にみられます。最初は7月に秋吉台で大きいのを、2回目は9月に美祢市美東町で小さいのを目撃しました、変化の大きさに戸惑いましたが、図鑑ではやはり大きさに変化があるとされています。夏場は暑いのであまりフィールドに出ることはないでしょうが、機会があったら探して見てください、きれいな「ガ」です。



7月、秋吉台で 30 mmほど



9月、美東町にて、20 mmほど

## 7. 会よりの連絡事項

今年度は6月・7月に活動日をプラスしてビオトープの維持管理を行っています。しかしながら会員の高齢化による病気や障害によって活動に参加できない会員が多くなっています。草刈り・エコアップだけでなく、なんでも活動が出来ますので兎に角会員の参加を要望します。

## 8. 編集後記

今年も田植えの季節がやってきました。しかし、自宅からビオトープへの車窓で目立つようになってきたのは、田植えをやらなくなった田圃です。毎年、このような耕地が増えています。寂しさを感じます。街中で育った私ですが、子供の頃も同じような光景を目にしました。しかし宅地開発のためであり、ある意味、希望に満ちた発展の象徴でした。

ビオトープの周辺でも、耕作放棄地あるいは稲作をやめた耕地が増えています。一時的なものであれば良いのですが、そうではないでしょう。須賀河内川上流部では道路さえも荒れ果て、オフロード車でなければ入れない有様です。ビオトープ横の水路を利用している田圃は、下流では一枚のみとなってしまいました。

ビオトープのエコアップをしていると、周囲の田圃がなくなったほうが都合良いと考えることがあります。ビオトープの環境を保つためには、大量の水が必要です。周囲の田圃がなくなる言うことは、水を使うライバルがいなくなることを意味します。しかしこれは愚かな考えです。周囲の環境が良好でなければ、ビオトープも成り立ちません。

私はビオトープが出来た当時、この方法が須賀河内流域全体に広がればと考えていました。休耕田が目立ち始めた上流部でもビオトープが広がり、活気を生み出すことが出来ればと。しかし二十年近くたった今、周囲は耕作放棄地ばかりになってきました。ビオトープが荒地に囲まれるのは時間の問題でしょう。虚しさを感じます。

( 前田 歳朗 記 )